

【社会科教育法Ⅲ】 第4回課題の解答(第9講用)

問1

勝田 瑠理

「政治とは何か」と「亜熱帯の沖縄」の2つの授業を、知識を習得するプロセスについて比較する。「政治とは何か」の流れは以下のとおりである。まず教師は生徒に「利害を持ち対立する個人や集団を1つの国家としてまとめるにはどうしたら良いか」と問う。生徒は個人で考えた後、班ごとに発表する。教師は「変な答え」も含めた生徒の考えが全て、実際に政治の方法で行われていることを教える。次に「どの球団が好きか」と生徒全員に手を上げさせた後、「なぜ巨人は人気か」と雑談を続けるが、その答えである「マスコミ」を使った手段が政治にもいえるをつなげる。その例としてヒトラーを出す。最後にヒトラーみたいな独裁者をつくらないために、私たちは政治を学ぶのだとまとめる。

「政治とは何か」のまとめは教師が最後にいうが、それを理解するためのプロセスをほとんどの授業時間に使っている。「亜熱帯の沖縄」の場合、最初に沖縄の基礎知識を知り、読み物資料をつかって沖縄の産業について個人、班、クラスで発表し合っ、最後に教師がまとめるのである。

安永 早紀

「亜熱帯の沖縄」では、教師は常に生徒に疑問を投げかけるが、それに対する明確な答えを提示せず、地図帳などで調べさせていた。いきづまったときなど、「困ったね」など揺さぶりかけることで違う視点で疑問をみさせるなど、あくまでも生徒に答えをださせようと働きかけていた。また、要素を関連付けて結論を導き出す帰納法的思考法を用いることで、生徒に沖縄の産業の特色を理解させながらも最終的に結論、すなわち MQ を導き出させようとした。生徒の疑問や問の答えによって授業展開がなされるため、主体的かつ能動的な学習がなされていたと考えられる。

これに対し「政治とは何か」でも、教師は生徒に問いを投げかけていたが、生徒が問いに対する答えを発表した後に、補足や身近な事象を例に挙げながらすぐに明確な答えを提示していた。また、問いは MQ にたどり着くように構成されていたように思われる。全体として生徒主体というよりは受動的な学習であったと考えられる。

問2

田中 友紀乃

この授業の魅力の1つに教師が大きな声で話しているということが挙げられる。子どもたちは教師が大きな声で話すことにより、授業に引付けられている。他の魅力としては、子どもたちがとっつきにくい政治について人々をまとめる手段から着目して、子どもたちがとっつきやすくしている点が挙げられる。子どもたちは人々をまとめる方法を考えたり、実際の例を聞くことによって政治とは何かを学んでいる。

一方で課題は、人々をまとめる方法に時間をかけていて、「民主主義を守る姿勢をとらなければならない」という重要な部分にもう少し時間をかけてもいいのではと感じた。

後藤 麻菜美

社会科授業としての魅力は、「政治」という言葉を個人や集団をまとめる手段から考えさせることで、言葉の意味や本質を生徒に認知（知識）させるよう授業が展開されていることである。また人々をまとめる手段には、民主的・非民主的な両方があることを考えさせ民主政治と独裁政治の違いについても触れている。これにより国民が民主主義を守る姿勢をしっかりと持っていなければならないことに気づかせている。

授業中にたびたび出てくる「例えば」という言葉は具体的に話を進めていくという合図であり、このことから語り中心の授業を展開していることがわかる。また具体的に話を進めていくことで生徒は既存の政治学習からより深く政治について理解できるようになるという魅力もある。

社会科授業としての課題は、全体的に語り中心の授業になってしまっており語り方や語る内容によっては先生のひとりよがりになる恐れがあることだ。これを改善するには、もう少し生徒に意見を言わせる、自由に考えさせる等の何か工夫が必要である。

花房 瞳

ワークシートで個人や集団をまとめる方法を穴埋めにして、子どもたちに考えさせ、既に知っていること、思い込んでいること、信じていること、先入観を修正、発展することで子どもたち自身の視野を広げている。

授業の最初にMQ, MAを提示し、統治の手段の本質をつかませている。また、子どもたちに身近な具体例をわかりやすく伝える、教えるためにストーリー仕立てにしたりして工夫し説明している。しかし、教師は、一方的に例を示して、子どもたちに自分の価値観を押し付けているように感じた。子どもたちは、考えが未熟で、知識もあまりないため、素直に教師の言葉を信じてしまう。

この授業は、政治の特色が理解でき、政治学習の導入には適している。政治の個々の認識を一定の原理に従って、倫理的に理解できるしくみになっている。

横山 遥

魅力

- ・生徒の既存の知識から、教師が「例えば～」などと生徒が関心のあるような具体的な現在の日本の事実に即して説明していたため、理解がしやすく、日本社会について考えることができていた
- ・権力について、支配される立場（国民）から政治をみており、その例をヒトラーにすることで、さらに支配—被支配の関係を批判的にとらえることができていた

課題（改善案）

- ・展開で使ったワークシートや内容をもとにヒトラーの独裁政治を考えるべきだった（個人をまとめる手段として、力、お金、宗教、マスコミ、共通の敵の例を教師が出した。それとヒトラーの政治と比較し共通点をみつけるなど生徒に考えさせる。まとめを展開2にするなどしてヒトラーの例を深める。）